

2017 年春の大セミナー 5th C+テーブル 総評

文責：東野（立教4）



《テーブルメンバー》

湯浅（明学2）、小沢（青学2）、古川（武蔵2）、三浦（東大2）
浅井（青学2）、宮尾（青学2）、松本（東大2） 順不同

《議論の流れ》

OP 決めでは、古川と小沢が OP に立候補した。2 人の Get AD までの Proceeding に大きな差は見られず、どちらも TG を Patient に据えた、臓器移植を推進するものであった。しかし、古川のコンパリアイデアが自分の死と他人の死を TG 目線で比べたものであったのに対し、小沢のアイデアは J/G の目線から臓器移植の Relation について論じていた。結果、「小沢にとっての fair な状態とは何か？」「fair の指標には何を使うか？」など小沢のコンパリアイデアについて多く Q の時間が割かれ、小沢が OP に決定する。

ASQ では、各エリアの定義確認/OP から見て脳死は死か/なぜ Cause に生きた人間は含めないか/現在の臓器移植のシステムはどうなっているのかなど Q が確認された。ここでは小沢がテーブルの流れをまとめたカンファメーションでテーブルを進め、大きな混乱は見られなかった。

NFC では 2 つのロジックがみられた。

①湯浅「J/G は人の生き死に関わるべきではない。人の命は各個人で決定されるべきものである」というアーギュ

→湯浅は当初 Goal を Change M に据えたものであったが、三浦の「Change M といっても、P-H-C が OP のものとは違うのでまずは Stop dis として考えよう」という提案に対し、湯浅が「それなら praca で検証したい」と取り下げる形となった。（個人的な感想：Change M はどういうときに起こりうるのかを考えてみるといいかもしれません。そもそも OP Vote って OP の TG を選んでいるのか Mandate を選んでいるのかコンパリアイデアを選んでいるのか。および、Change M を“すべき”状態ってどんなときでしょうか。そしてそれはいつ、どんな方法でわかるでしょうか。必要なのはなんでしょうか。テーブルの誰が決定権を持ち、それは何に基づくでしょうか。議論を広く捉えてみると、Change M が議論に果たす意味ってなんでしょうか。もし自分だったらこれらの内、どの要素を使ってテーブルを舵取りするのが最短/話を広げられるのか。など！）

②浅井「今回の AD の範囲に×rejection を含まなければ本当の意味で AD とは言えない」というアーギュ

→OP が今回提示した AD は「TG が持つ病気さえ治ればいい」というものであったが、浅井は「rejection による範囲まで考えなければ RSN for will を叶えるものではないので AD とはいえない」と主張した。結果、OP が病気によつての苦しみと rejection によつての苦しみの違いを提示し、今回 OP が取り扱う M/S の定義とは違うことを示した上で、浅井のアイディアは DA として検証されることになった。

PLAN サイドは Practicability まで滞りなく進み、3つのロジックが検証された。

①古川「今回の Mandate はインフォームドコンセントに反しており、World rule に沿うものではない」というアーギュ

→脳死だけに言える話なのか/WHO が守らせているのか国が守っているのか/SQ にも同じ状況はあるのか、など多くの Q が飛び交ったが、湯浅の「本当に破ることはできないのか？」というダウトから、古川のアイデアは破った際の DA に対して言及したものであることがわかり、湯浅の Suggestion により DA で話されることになった。

②湯浅のアーギュ（内容は NFC で出たものとほぼ同じと思われる）

→当初は Suggestion という形で提示していたが、1つのアーギュとして検証され、非常に多くの時間を割いた。テーブルで話された主な論点は、「現状の死刑制度下はなぜ認められ、なぜ今回はダメなのか？」という点であったが、結果、小沢の「S/M を持っているならば J/G は touch すべきである」という Suggestion により流れる。（個人的な感想：NFC のようなことを話しているように見えました&そもそも提案なのか反論なのか？を掴むことでもう少し早く終われたと思います。テーブルでは、その場その場でアーギュに対応するのではなく、1つ1つ積み重ねたコンセを忘れないでください。そもそもアイデアプレゼンターがやりたかったことは何なのか、なぜこのエリアでだすのか、議論でどういう影響を与えたいのかを見極めましょう。相手に沿った介入をすることは議論を進める手助けになります。アイデアをまた1から検証するのではなく、NFC でのコンセを使えばもう少し結論に近づけたかなという印象でした。）

③三浦の「人を殺すにはある程度のステップが必要だが、今回の場合はそのステップが十分ではない」というアーギュ

→SQ は will が Clear だが APA では×clear になってしまうのかなどの Q が見られたが、検証途中で終了した。

以下、順位とコメントは、みんなそれぞれにどこか共通する部分があるので時間があったら全部読んでみてください！「こういう人に自分はどうするだろう」って考えてみるのもいいと思います。

《順位とコメント》

1 位 小沢（青学2）

OP として議論の土台をつくり、コンスタントに他のアイデアへの介入したことを評価し、1 位としました。また、徹底して Get AD に必要なものとそうでないものを分ける姿勢も議論に貢献していたと言えます。ただし、他の人の発言が片付いていない間に介入している場面が多く見られたため、これからは他の人を巻き込んだ丁寧な介入を心がけてほしいです。5 回中4 回見ていると、きっと自分の頭の中に道筋は立てているんだけど、他の人から見たら突然の介入でびっくりすることや敵に回ってしまうことが多かった印象です。次にテーブルを組むときは、その場にでた発言を自分のやりたいことに結び付けるような介入を意識してみてください。お疲れ様！

2 位 湯浅（明学2）

OP のアイデアを深めるための積極的な介入を評価し、2 位としました。1 位との差は非常に僅差です。ダウトに基づいた Suggestion はテーブルに大きく貢献していました。しかし、湯浅くんの Suggestion は常に OP が提示したカンファメーションの土台があったから成功したという印象でした。なので、これからは自分で QCACS の流れを作ることを意識してみてください。2 回見ましたが、Q と S の力はあるのに対し、カンファメーションが非常に少ない印象です。これからは、その S の力を利用して、自分が打ちたい S から逆算してカンファメーションをすることを意識してみるといいと思います。お疲れ様！

同率3 位 古川（武蔵3）

ASQ から一貫して自分のアイデアのための Q を丁寧に取り扱い、NFC ではアーギュをだし、テーブルの深度に貢献したことから3 位としました。もちろん、他のアイデアへの介入もしていたのですが、Q がメインでその一歩先（テーブルの論点をまとめたり、Suggestion を打ったりすること）がみられず、テーブル全体としては自分のアイデアだけを話して終わってしまった印象だったのが残念でした。古川くんのいい点は、特にプレゼンテーション能力が長けていることです。その強みはカンファメーションで光ると思います。というか大体に役立ちます。だからこそ、Q だけでない介入をプレパしてみてください。お疲れ様！

同率3位 三浦（東大2）

常にダウトを持った介入をし、発言の質においてはテーブル随一だったと思います。

これからもぜひその点を伸ばしてってください。しかし、ダウトを提示するのみで、そのダウトは1位や2位の人に取り扱われている印象でした。また、ダウトを持った介入はとても良いのですが、テーブルに提示することで結論に影響するダウトとそうでないものがあります。なので、これからのテーブルは自分のダウトがどう議論を動かしていくかを考え、自分自身でダウトを取り扱ってみるのを意識してみるといいと思います。最後に、用意してきたアーギュが話せないことに対しての発言が多くみられましたが、次からはそのもどかしさを、テーブルを進めるという形で叶えてほしいです。お疲れ様！

5位 宮尾（青学2）

議論が停滞した際にはアイデアプレゼンターの理解に努め、テーブルを進めようとしていた点はとても良かったです。しかし、介入が非常に限定的だったため、5位としました。これからは、自分なりに介入が少なくなってしまう原因を見つけるところから始めて、徐々に介入量を増やすプレパをしてください。プレゼンテーションが上手だっただったので、もっともっと輝けるとと思います。お疲れ様！

6位 松本（東大2）

自分の理解のためのQが多く、テーブルのための介入が乏しかった印象です。しかし、Qをした後に話を整理する能力は高く、テーブルを混乱させることもありませんでした。だからこそ、なぜ自分がこのQをしたのか、このQがわかるとどうなるかをテーブルに提示してみてください。まずは先輩のいるテーブルで、自分の思考を出してみるとそこから始めてみるというかもしれません。お疲れ様！

7位 浅井（青学2）

介入が非常に限定的でした。唯一の介入であるアーギュも、出して何もせず終わってしまいました。せっかくエビデンスもしっかり調べあげてきていたので、アッセン期に向けて、自分でアーギュを進めていく力をつけてほしいです。また、他の人のアーギュにも積極的に介入してみてほしいです！そしたらもっとテーブルが楽しくなると思います。お疲れ様！

《さいごに》

お疲れ様でした！最初の春セミ、どうでしたか？

わかんないことばっかだし、思うようにはいかないし・・・で、想像以上につらかったんじゃないでしょうか。でも、「もういやです～」なーんて言いながらも全力でディスプレイをやりきって、最後には「来年はエキシビ！」ってしっかり書いてくる君たちがとってもかわいくて、そしてとってもとっても誇らしかったです。君たちが感じた「悔しい」や「もどかしい」は絶対にぜったいに、忘れないでください。そしてその感情とちゃんと向き合ってください。それはアッセンにつながって、アッセンは肝炎につながって、肝炎は春セミにつながります。つまり、君たちの未来につながっています。君たちはまだ2年生。今からどうにでもなります。長々とえらそうなこと言っておめんなさい。君たちがアッセン、春セミを素敵に終われることを願っています。ぜひ来年はこのテーブルメンバーのまま上のテーブルにいてください♡笑

コメント長くてごめんね！読んでくれてありがとう！本当の最後！

総評や個人に対して向けたコメントは、点数とは別に99%私の感想に基づいています。なので、あまり信用はしすぎず、見た人間の感想だなーくらいにとどめておいてください。それではでは。がんばれ！！！！

(総評について文句を言いたい、聞きたいところがある、テーブル写真欲しい・・・などなど、何か力になれることありましたら何でもどうぞ！！↓)

立教大学 東野 絵名☺

LINE ID : tkyu